生涯学習情報誌
- フォンズ -
Fons
No. 84
2018年4月12日発行
常陸太田市フォンズ・ネットワーク事務局
常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL:0294(72)8888 / FAX:0294(72)8880

写経・写仏の体験記（菊蓮寺）

高橋 靖浩

はじめての写経・写仏を経験するにあたって緊張感でいっぱいです。書をたしなむのは、小学生の時以来で、冬休みの宿題には必ず書き初めが出て、最終日に大慌てでしぶしぶ書いたのを思い出します。

そんな想い出がなつかしい書ですが、下手な字を克服しようと親の手ほどきを受け、水差しに少量の水を入れ、墨のすり方と筆の持ち方や書き方の心得を教えてもらったのを思い出しております。そんな思いにふけりながらなんとか写経と写仏に取り組みました。

写経にあたって、お経をあげ、手を香で清め取り掛かることや、心を落ちつけ、墨をすり、墨を筆につけて文字を書く。墨をする段階から写経は始まる。禅でいえば道場に入る時の心構えである、ということを聞き、般若心経を一字一字心こめて写経するうちにお経の意を何となく理解することができるようになり、無心で最後まで書き込む自分がおりました。

何かとせわしない現代社会ですが、写経や写仏をする時間はとても贅沢で心落ちつく時間となりました。

是非一度体験してみてはいかかでしょうか。

フォンズとは…ラテン語で泉の意味です。とぎれることなく新鮮な情報がお届けできるようにと名付けられました。

特集

お寺体験記　其の一

高橋 靖浩、安嶋 隆、萩谷 浩司、黒澤 貴子、原田 静雄、
鴨志田 弘子、大内 広明

私たちはお寺というと、お葬式やお墓を対のように連想しますが、お寺、仏教は本来〝人々がいかに幸せに生きるか〟を追求してきた場所でした。日本仏教史を紐解くと、仏教は五三八年に百済から伝えられたそうです。その後多くの寺院が建立され、そこで厳しい修行をつんだ僧たちにより仏教が全国に広められていきました。時には国家から庇護（ひご）され、また或る時は弾圧を受けながら現在に至ります。現代では、仏教のひとつの実践である坐禅や写経が個人の心の有りようを模索する手段として注目されています。そこで私たちは市内にある実践の場としての寺院を訪ねることにしました。

耕山寺での禅体験

耕山寺（こうざんじ） 禅体験

寺院は山ふところ深くにあり、辺りは静寂そのもの。私達が寺を訪れたのは、陽も西に傾いた頃でした。松浦史享（しきょう）副住職の促しにより、受付を済ませ、本堂を案内していただきました。

坐禅の指導は、若く長身でハンサムな副住職により、まず坐蒲（ざふ）の扱いを教わります。次に脚の組み方として結跏趺坐（けっかふざ）か半跏趺坐（はんかふざ）を組み、手は法界定印（ほっかいじょういん）を組みます。頭・首・背中・腰をほぼ垂直にし、目は半眼に開き目線を一mほど先の床に向けます。そして呼吸は鼻道からゆっくり奥の方まで吸い込み、いったん丹田に留めそれを鼻からゆっくり吐き出します。これを何度か繰り返して呼吸を整えます。その後肩の力を抜いて、ひたすら置き物のように、四囲（しい）に身を委ねます。鐘の音の合図により、始め・終わりが知らされます。

基本姿勢や呼吸法などの指導

「昨日はどうだった、明日はあれをやらないと…様々な妄想と足のしびれ、体の不安定さ。何分たったのだろうか、我慢我慢。唾液をごくりと飲み込む音、腹が減ったのかグーッと鳴る音、いつまでこうしているのだろうか、隣でバシッと喝を入れる警策の響き、虫の音がやたらと大きく聞こえる。終わりの合図はまだかなあ…」このような状態が四十分ほど続く。そしてやっと坐禅終了の声。『般若心経』を皆で合唱する。なぜか虫の音が〝羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦〟の経と同調する。終わりの鐘が鳴り、手足の麻痺を整えて、次の動作へ、ゆったりとした歩行に移ります。

般若心経を皆で読経

副住職によると、「禅の教えについて、或いは坐禅についての本などは沢山、世に出ておりますが、文字を読んだだけで解ったつもりになってはいけない。何事も必ず実践を伴わなくてはなりません。」とのこと。

坐禅終了後、客殿にて男女十二名の皆さんが一堂に会し、副住職のお話を聞きました。その中で特に印象に残ったのは〝坐禅の体験〟という表現に対して、副住職は「私は体験という表現はあまり好ましく思いません。なぜなら、一瞬一瞬は大事な人生そのもの、それを体験という擬似的な言葉で言い表すことはできません」とのこと。また、初めて坐禅を試みた私たちが〝無の境地には全然なれませんでした〟と感想を語ると、副住職は「それは観念上のもの、現実は無になろうとこだわる必要はないと考えます。唯々今の自分と向き合うのが重要」とのことでした。皆さんも一時日常から離れ、素の自分と真正面から向き合ってみませんか。

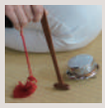
体験者の前に並んだ丸い座蒲

終わりの鐘が鳴り、ゆったりとした歩行へ（経行）

副住職の松浦史享さん

禅終了後、客殿にて茶話会

耕山寺（曹洞宗 廣澤山 耕山寺）
瑞龍町2052−1



香仙寺（こうせんじ） 御詠歌（ごえいか）体験

香仙寺は、花房城跡のある丘の南にあり、県道六十二号線から東へ入ると、親水公園の隣りにあります。駐車場に車を止めて山門を入ると、大わらじが掛けられています。本堂の右奥へ行くと直牒洞（じきてつどう）と呼ばれる洞窟があります。直牒洞は中央窟が大きく、左右に小窟を配しています。中央窟は窟内八畳あまり、正面奥の壁面には、弥陀三尊、阿弥陀如来座像と観音・勢至立像が浮き彫りにされていて面容円浄、柔和な素晴らしい文化財です。

じきてつ道内の石仏は県の重要文化財

御詠歌とはお経の中身を分かりやすく表した短い歌で、長い歌は和讃（わさん）といいます。月に一回、御詠歌詠唱（えいしょう）を教えていただけると聞いて伺ってきました。

まずは正座して道具の置き方を教わり、鈴、鉦鼓（しょうご）、撞木（しゅもく）の三つの道具を定位置に並べます。楽譜をいただきましたが、まず皆さんの歌い方を聞いてからやってみようと耳を傾けます。独特の音程でお経に近い感じで何となく歌えます。しかし次に道具を持って音を出すのが一苦労で、音が出てもリズムをとるのが難しく悪戦苦闘です。途中から皆さんの詠唱を聞かせていただきましたが、歌と鈴の音が合うと美しい響きでなんだか懐かしい気持ちにもなりました。

左から鈴、鉦鼓、撞木

住職の三宮治穂（さんのみやはるお）さんは平成二年に香仙寺に来られ、以前修業したお寺で行っていた御詠歌詠唱を地域の方たちと知り合うきっかけになればと始めたそうです。長い方では二十年以上も参加されている方もおり、興味があれば誰でも参加できるとのことです。お寺というと敷居が高いイメージだったのですが、体験を通して身近に感じることができました。

第十八番　山城の国　愛宕　月輪寺

月かげの　いたらぬ里は　なけれども
ながむる人の　心にぞすむ

（法然上人御作）

皆で御詠歌の詠唱中

御詠歌は五・七・五・七・七の短歌形式、和讃は七・五調の長歌で、どちらも一定の節をつけて唱え上げられ、仏の功徳や教え、寺院の霊験などを詠んだ仏教賛歌です。

奈良・平安期頃から「釈教歌（しゃっきょうか）」という、仏教的内容の短歌・長歌・今様が見られ、特に中世から近世にかけて西国三十三観音霊場への巡礼が盛んになるにつれ、各札所寺院の霊験を称えた歌が詠み上げることが盛んに行われるようになり、それが全国各地に広まり御詠歌へと発展しました。

このように自然発生的に生まれた御詠歌ですが、明治以降には真言・天台・浄土・曹洞などの各宗派で独自の流儀・作法を形成させ（曹洞宗の梅花流・高野山真言宗の金剛流・浄土宗の吉水流）またその宗派独自の御詠歌・和讃も新たに作られ、現在の形へと発展しました。

住職の三宮治穂さん

袈裟には「徳川家の葵と月影杏葉（つきかげぎょう）の紋所

香仙寺（不軽山 荘厳院 香仙寺）
松栄町615

菊蓮寺（きくれんじ）
写経・写仏（しゃぶつ）体験

写経に入る前に、住職から、諸行無常の講話をいただきました。次に女性は右足・男性は左足から本堂に入り、ご本尊にお参りし、香炉をまたぎ椅子に着席します。全員で木魚をたたきながら『般若心経』などを唱え、住職に、お香をひとつまみいただき、両の手のひらを合わせ塗りこんだあと、身と心を清めます。次に、ご本尊に再度お参りし、写経会場へ向かいました。いよいよ写経に入るのですが、すごく緊張しているのがわかりました。住職より、初心者でも大丈夫なように丁寧な説明がありました。

本堂にて祈願

「写経とは、お経を書写すること。お経を写すということは、僧侶の修行の一つでもあるのですが、一般の人々も供養や祈願のため、心静かな時を過ごすために行うようになったとのことです。お経一字一字を丁寧に、仏さまの教えをいただくという清浄な尊い気持ちで書写することです。」

菊蓮寺では『般若心経』二七八文字、または『一枚起請文（いちまいきしょうもん）』三二七文字を、墨をすって筆で書くか、または筆ペンで書き始めます。

人で賑わう境内とは一線を画した写経会場、凛と張り詰めた静けさのなか、いつしか無心になっていきました。

『写仏』とは、仏さまのお姿を描き写す〝行〟です。白描図（彩色をともなわない墨線だけの下絵）の上に薄い和紙をのせ、仏さまのお姿を写しとって行きます。

心静かに筆をはこび、仏様と向かい合うことで自分自身と向き合います。「心の洗濯ができ、どこからなぞるか迷ったけれど、まずはお顔から ：仏さまのお姿を写すことで、すべてのものに対し平等な、仏さまの優しい心に近づいていくような気持ちになれますように…。」

さっき、聞いたばかりの説明を心の中で繰り返しながら写していくと、日ごろたまったストレスや、もやもやした感情が次第にぬけて、晴れ晴れとした気分になれるのが不思議です。

写経会場

尚、写経写仏のお手本や用紙は、菊蓮寺で用意しています。筆ペン、文鎮、下敷きの見で気軽に参加できます。

完成前の写仏

住職の安西仁人さん

菊蓮寺（舎利山 三光院菊蓮寺）
上宮河内町3600

お寺体験記其の二は別号で掲載予定ですので、どうぞお楽しみに!!

子ども科学クラブ

常陸太田市 子ども科学クラブ

実行委員長 森 一史

現在、小学校や中学校では「理科離れ」が進んでいると言われています。

子どもの頃から自然や科学の現象にふれたり、体験活動を通して理科を好きになってもらおうと、常陸太田市子ども科学クラブは、平成二十二年四月に実行委員会が設立されました。科学の知識をもった市民等が講師となり、市内の小学生（三年生から六年生）を対象に、毎週第四土曜日に実施しています。

実行委員会では年十回の実施計画をたて、様々な実験を楽しんでいます。夏休みには科学館の見学、秋には自分たちで作った水ロケットを飛ばすなど、屋外での体験も行っています。また、企業などで活躍された研究者の方も指導にあたり、その研究の成果を子どもたちに教え、学校の授業では取りあつかわない不思議な実験なども行っています。

毎回、実験に成功した瞬間は、初めて見る現象に子どもたちの歓声があふれます。

平成30年度の子ども科学クラブの募集は、5月頃を予定しております。
詳しくは生涯学習センターまで　72-8888

文化の泉

常陸太田市 歌手連絡協議会

黒羽 文男

常陸太田市歌手連絡協議会は、歌う事で皆が元気になる事を目的に、歌や作詞作曲に造詣の深い方々九名で平成二年に発足しました。

福祉施設への慰問、各地のイベントへの出演。カラオケ教室での歌の指導などの活動をしています。

池田会長が指導しているカラオケ教室へお邪魔して歌にかける思いを伺いました。

「正確に歌詞やメロディーを覚える事、どうすれば感情をこめて表現できるかなどを指導の目標にしている」「それぞれの歌に込められた嬉しさ、悲しさ、懐かしさを伝えるには、語りかける言葉をはっきり聞かせる事と、微笑みの声や悲しく聞こえる声などをベースに人の心をつかむことが大切だ」と熱のこもった口調で語ってくれました。

作詞作曲では、地元の風景や情景を歌った演歌や童謡も作っており、通信カラオケにも配信されています。自分たちで手がけた曲を歌った曲を大勢の人々に知ってもらい広まったら嬉しいと語ってくれました。

連絡先／会長：池田 信義　090-2478-1784
常陸太田市教育委員会文化課　72-3201

常陸太田の地名話 28

磯部（いそべ）『常陸太田市磯部町』

川松 博

磯部は伊勢部ともいわれ、古くは『古事記』の中にもみえる。太田亮氏は『姓氏家系大辞典』の中で、磯部（伊勢部）は大和朝廷に仕え、海や河川の近くに住み、漁撈（ぎょろう）や航海を職業とする品部（しなべ）であると述べている。磯部町は、里川に注ぐ源氏川右岸に位置し、久慈川にも近い場所である。このことから、両河川の漁撈や水運関係に従事した磯部が居住したことに基づく地名と推測できよう。

また『新編常陸国誌』は、二つの説を述べている。

一つは、この磯部という品部が居住したことに由来する。

二つめは、往古はこの地を五十騎（いそめ）といい、武士の中級家臣団が居住したことに由来する。この二説を記している。

磯部田んぼの都々逸坊歌碑

〈参考文献〉
「新編常陸国誌」「茨城県史料 中世編Ⅰ」
「常陸太田市史―通史編―」「金砂郷村史」

思い出の絵本

『へぇーすごいんだね』

後藤 季子（下利員町）

「思い出の絵本」と聞かれると、娘が小さい頃、毎日寝る前に読み聞かせをしていたことを思い出します。絵本を通して娘と楽しい時間を過ごした日々が懐かしく蘇ります。仕掛け絵本や、文章のない絵本、また、大人が読んでも心が温まる絵本など沢山の絵本との出会いがありました。

今回、私がご紹介する一冊は「へぇーすごいんだね」です。

四人のおにの子はとっても仲良し、四人はそれぞれみんな違う色をしています。黄おに、緑おに、青おに、赤おに、違う色なのはなぜかな？生まれの秘密をみんな知っているのに赤おにのあかたろうは知りませんでした。「赤い金魚…」と言うとみんなに「嘘つき～」と大笑いされてしまいました。お母さんから本当の事を聞いて、赤たろうはとっても嬉しそうです。本当の事を友達に話すと「へぇーすごいんだね！」とみんなびっくり！「みんな色が違うけど、みんなすごいんだ！みんな違うけどちっとも不思議じゃないんだぜ!!」

私はこの言葉にとっても励まされました。そして、お互いの違いを認め合い尊敬し、おにの子達のように仲良くできる事はとても素敵なことだと思います。もし書店、図書館等でこの絵本を見かけたらぜひお手にとってみてください。

新しい出会いが多い春の季節、皆様もどうぞ素敵な絵本との出会いがありますように！

ちょっと ひといき

全日食チェーン金砂郷久米店『金砂郷プレミアムあんぱん』

黒澤 貴子

常陸太田市久米店の金砂郷プレミアムあんぱんは多くの種類があり、季節によってクリームの味も変わるそうです。毎日店頭には十種類ほど並び、季節限定もあります。その時期には足を運びたくなりますね。

パンの中には生クリームと餡がたっぷり入っていますが、食された方は甘さ抑えめで美味しいとの声。お土産にも喜ばれ地元で大人気です。パンの表面に焼き印された㊎マークが目印。種類が多く選ぶ楽しさもあります。

住所／久米町213　電話／76-0058　営業時間／6:00～23:00
定休日／年中無休　プレミアムあんぱん150円、粒あん160円、カスタード160円など（料金は全て税抜です）

ほっと ひといき

『ミミガタテンナンショウ（サトイモ科）』

安嶋 隆

この仲間は全国で三十種以上が知られていて、分類困難なグループのひとつです。市内には数種確認されていますが、この種類は花期には葉が展開していないことが特徴です。花期は四月～五月で、花は暗紫色の仏炎苞の中に隠れています。雌株と雌株があり、栄養状態がよいと同じ株で雄から雌に性転換するという変わった性質を持っています。地下の塊茎が小さいと雄株、大きいと雌株になるという説もあります。コンニャクの仲間ですが、地下の塊茎は食べられません。また、ミズバショウやザゼンソウも同じ仲間です。

名前の〝耳形〟は仏炎苞の下部が耳に似ていて〝天南星〟は中国語名である天南星を訓読みしたことによります。

地方名ではマムシグサとも呼ばれています。よく見ると炎苞炎の形が〝蝮の鎌首〟に似ています。さらに茎の模様が蝮の銭形模様にそっくりです。先人の観察力に驚かされます。

新太田点描 19

舞鶴門のことなど

慶長七年(一六〇二)五月、常陸国領主佐竹義宣は徳川家康から突然に秋田への国替えを命じられた。この時、義宣は領国常陸の水戸や太田へ立ち寄ることなく京都から秋田へと向かっている。

この事態に、詳細な情報を得ていない国元常陸の領主一族及び家臣団には大きな動揺が走ったことは想像に難くない。義宣の父義重はかつて佐竹氏の本城であった太田城(舞鶴城)に隠居していたが、移住止む無しとする家臣達と共に秋田に移ることとなった。

さて、ここからが今回のテーマである。義重と一族が居住していた舞鶴城はその後一体どうなったのであろうか。恐らくは水戸城と同じように徳川氏に接収されたのであろうが、関心事はその後の処置である。当然のこととして一般的に考えられるのは、

一、破却

城内の建造物等を全て取り壊して土塁や石垣を削り崩して更地にし、農地や宅地など新たな土地利用に供する。

二、解体移築

城内の建造物等を各々の目的によって解体移築して再利用をする。また場合によっては民間へ払い下げることもある。

三、現場での再利用

城郭内の土地建物等をそのまま残して藩で管理しながら使用する。

以上のような対応であろう。

今ここで紹介する史料は、佐竹氏の秋田国替え後八十八年を経た元禄三年(一六九〇)七月、水戸黄門光圀公が西山荘へ隠居する直前に家臣の谷鉄裁に宛てた二枚の「覚」である。横五十一センチ、縦三十九センチの奉書紙に墨黒々と認められている。

覚

一　舞鶴門

附　門証

源光圀 印

元禄三年

七月三日

谷鉄藏 江

これによれば、元禄年間まで取り壊されずに残っていた舞鶴城の大手門(舞鶴門)と門扉を谷氏に下げ渡したことになる。この時には門扉に取り付けられていた門証も同時に下げ渡したことになる。

ところで、ここに態々記載されている門証とは一体どんなものだったのだろうか。常識的に考えるならば、水戸徳川家の三つ葉葵の門証か、或いは前の領主佐竹氏の五本骨扇に満月の門証＝俗に云う佐竹扇＝かということになる。

さらに推論を重ねるならば、三つ葉葵の門証ならば徳川家ではそれを外して下げ渡すであろう。或いは佐竹氏居住の時から付けられていた佐竹扇の門証が国替え後も門扉にそのまま付いていたものであろうか、大いに興味を引かれるところである。

一体に佐竹氏一族とその家臣団が常陸国に残していったものはアチコチに点在する城館跡のみで、それ以外の遺物や遺品は殆ど見当たらない。とすれば、この一枚の、「覚え書き」などは、佐竹氏時代の舞鶴城に暫し思いを馳せてくれるものであろう。

(吉成英文)

(ひたちなか市　大山富彌氏所蔵)